菊池市立菊池北中学校　学校だより　No.21
2026.10.9　文責　岩谷　寛

生きる

逃げるな！　隠すな！　誤魔化すな！





夏から秋にかけて、ニュースでは時折〝台風〟接近と報じられてきました。全国各地で甚大な被害をうけた地域があり改めて自然災害の恐さを感じます。幸い九州への上陸はほとんどなく前期は休校することもなく今日を迎えることができました。しかし忘れてならないことは、7月に起きた熊本地震です。あれから二年が経ちますが、被災者の支援はもちろん、復旧復興に向けて、また地域再生に向けて県民がひとつになってがんばる時ですね。

さて、前期を終えるにあたってのしめくくりの言葉です。

逃げるな！隠すな！誤魔化すな！

いつからだったか定かではないけれど、年老いた私の父が昔からよく言っていた我が家の家訓的なものです。

――さかのぼること約50年近く昔…私がまだ小学3年生の夏休みのある日の話です。岩谷家で朝のラジオ体操から帰ってきたあと、3kmのランニングが突如始まりました。1周1kmのコースを3周です。中継所である我が家の前には、ストップウォッチを握る父の姿。まだ十歳にも満たない少年にとっては本当に過酷なトレーニングでした。ある日、あまりにもきつかった私は、父にばれないように近道をして上手に時間調整しながら走りました。何回か成功して味をしめてしまいました。しかし、とうとうこの〝ズル〟がばれる日がやってきたのです。当時の私の記憶では、この時初めて父の涙を見た気がします。半端なく叱られたけれど、叱られたことより、偉大だと思っていた父の涙の方が、小学校3年生の少年にはショッキングな出来事でした。我が子の〝不甲斐なさ〟に涙したのだと気付くのはそれから随分あとだったと思います。――

父が我が子に伝えたかったことが何なのかは、大人になるにつれ理解することができましたが、これって結局のところ、〝人の心の弱さ〟〝心の強さ〟なのだと思います。自分が親になり子どもを育てる立場になると、やっぱりこの言葉を我が子に伝えていくのだろうなあと思います。そしていつか我が子が家庭を持った時も、この言葉を伝えてほしいと願う今日この頃です。

精進～心身を慎み　悪を離れて善行に励む～

前期が今日で終わります。昨年の前期終業式でも同じ話をしましたが、前期の登校日は1年生が（99）日、2，3年生がちょうど（100）日でした。菊心魂に示す「中学3カ年の千日」で考えると、どのあたりに自分が位置するのか考えてみてください。42．195㎞のマラソンで例えたら、1年生が約（7㎞）、2年生が約（21㎞）、3年生が約（35㎞）走ってきたことになります。1年生はまだまだ序盤といったところでしょうか。2年生はちょうど折り返し地点になりますね。3年生は、残り7㎞と考えたら、本当にあとわずかだなと感じると思います。

今日、皆さんは通知表をこのあと受け取るかと思います。前期の頑張りを各教科の先生方がしっかりと評価してくれています。また、担任の先生からは、みなさんの前期の頑張りをたたえるとともに、もっと頑張ってほしいことや期待していることを言葉にしてくれています。通知表に記された数字や言葉は、先生方からの熱いメッセージです。そのことを感じ取れたなら、みなさんはもっと成長していけるはずです。

この前期、実にいろいろなことがありました。体育大会、学年の様々な行事、部活動、勉強と、その時その時に多くの挑戦をしてきたと思います。そして、そのすべてを振り返った時、何もかもが万事うまくいった！という人はあまりいないと思います。「失敗」の方が多かった人もいるかもしれません。ただ、失敗した！という経験は、言い換えるならば「何かに挑戦した」ということです。何もしなければ失敗はしません。同時に成長もしません。あなたたちがこの前期に経験した「すべての失敗」は、確実に今の自分の成長につながっているということです。

そこで、前期の締めくくりは、『精進』という言葉で締めくくります。

『精進』という言葉は、仏教の教えから伝われていると聞きました。調べると、「心身を慎み、悪を離れて善行に励むこと」と書かれていました。一般的には、「一つのことに精神を集中し、一生懸命努力すること」という意味です。ぜひ後期も、失敗を恐れず、結果にとらわれず、勇気ある一歩を踏み出して頑張っていってほしいです。自ら立てた目標に向かってがむしゃらに全力で励む、努力するみんなであってほしいと願っています。

短い秋休みですが、疲れた身体を休めるとともに、後期に向かうエネルギーをしっかりと充電し、さらに、後期の具体的な目標をしっかりと定めてから、後期に挑んでもらいたいと思っています。15日は、また全員元気に再会しましょう。前期本当にご苦労様でした。終わります。

【10月9日　終業式にて　校長挨拶】